

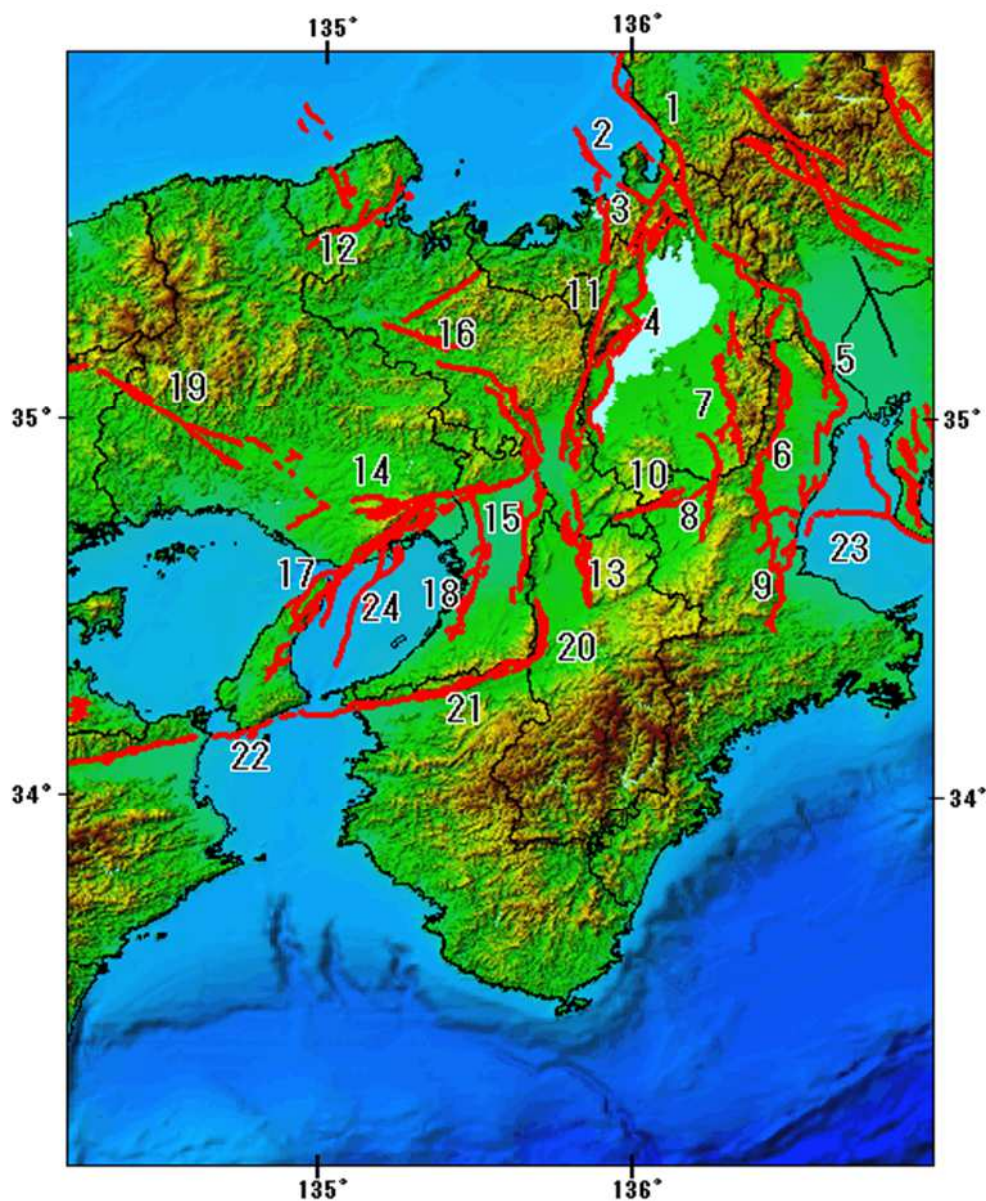


霧島連山（宮崎・鹿児島県）の火山活動

少し旧聞になりますが、2月14日に火山噴火予知連絡会の定例会が開催され、霧島連山(宮崎、鹿児島県)、新燃岳では火山活動がやや高まった状態が続いており、新燃岳や御鉢では小規模な噴火が発生する可能性があるとの見解を示しました。さらにえびの高原(硫黄山)周辺でも一時的に火山活動が高まり、推移に注意が必要と発表しました。

その後、2月23日になり、気象庁は霧島山(御鉢)＝火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)が継続＝の解説情報を発表しました。御鉢では火山性地震の活発化がみられることから、小規模な噴火が発生するおそれがあり「引き続き、地元自治体などが行う立ち入り規制に従ってください」と呼びかけています。

近畿地方の活断層と過去の地震活動





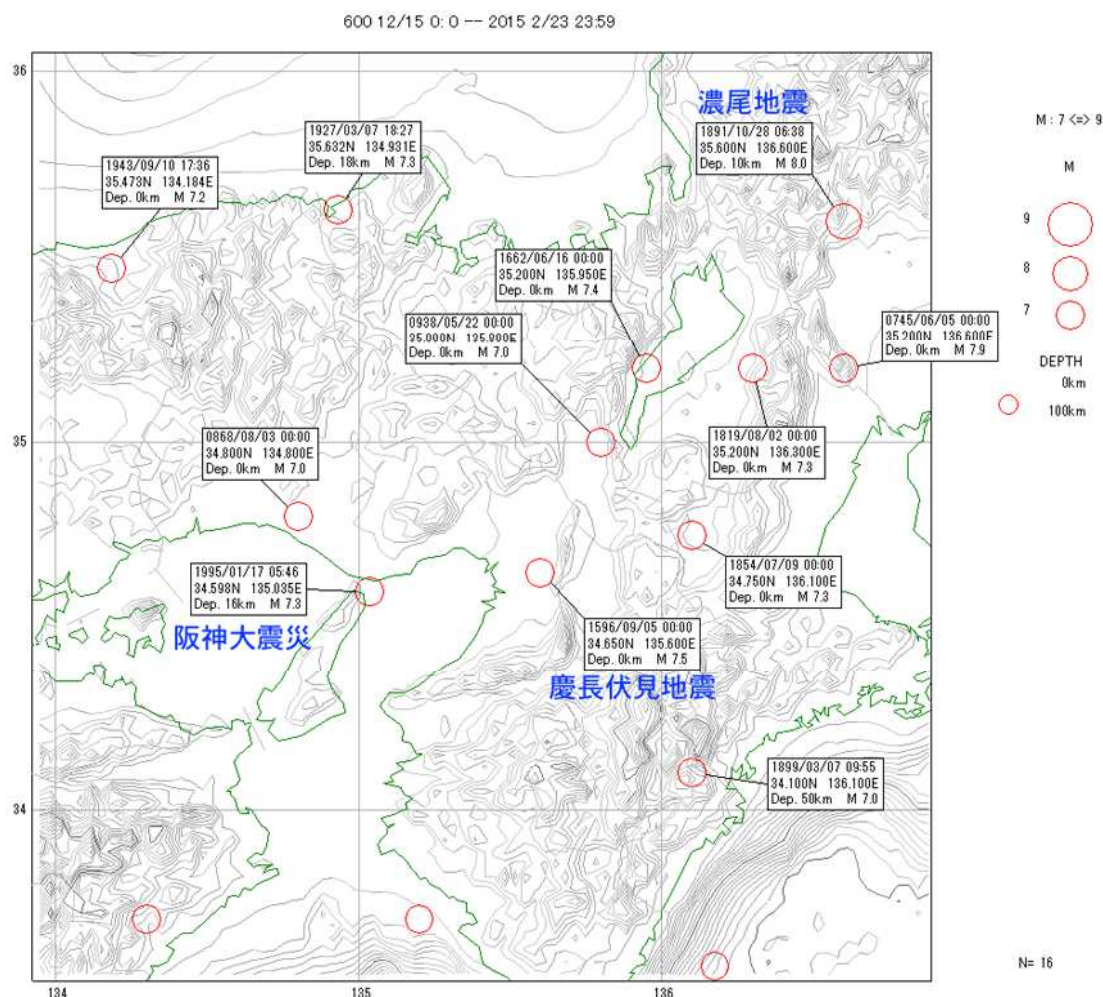
今週は東海地方より西側の地下天気図をお示ししていますが、特に近畿地方では地震活動の静穏化が進んでいます。そこで近畿地方の活断層と過去の地震活動をまとめてみました。前ページの図は政府・地震調査委員会が公表している近畿地方の活断層分布です。

ここで重要なのは、以下の番号の活断層が「いつ地震が発生してもおかしくない」と考えられている活断層です（もちろん人間の時間スケールで数年という事ではありません。あくまでも地震調査委員会が公表しているのは、地学的な100年単位の問題ではありますが（これが30年確率と呼ばれるもので、30年以内に1%というのは“高い”確率なのです）。

- | | |
|-------------|--------------|
| 4 琵琶湖西岸断層帯 | 11 三方・花折断層帯 |
| 14 有馬一高槻断層帯 | 17 六甲・淡路島断層帯 |
| 18 上町断層帯 | 19 山崎断層帯 |

皆様も一度は名前をお聞きになった事がある断層があるのではないのでしょうか。特に大阪城近くを通る18番の上町断層は最も地震発生の可能性が高いと考えられています。また京都の東側、銀閣寺の東側を通る11番の三方・花折断層帯も地震発生の可能性が高いと考えられています。

下の図は紀元600年から2015年までに発生したマグニチュード7以上の地震です。このように近畿地方は比較的多くの内陸の被害地震が過去に発生しているのです。

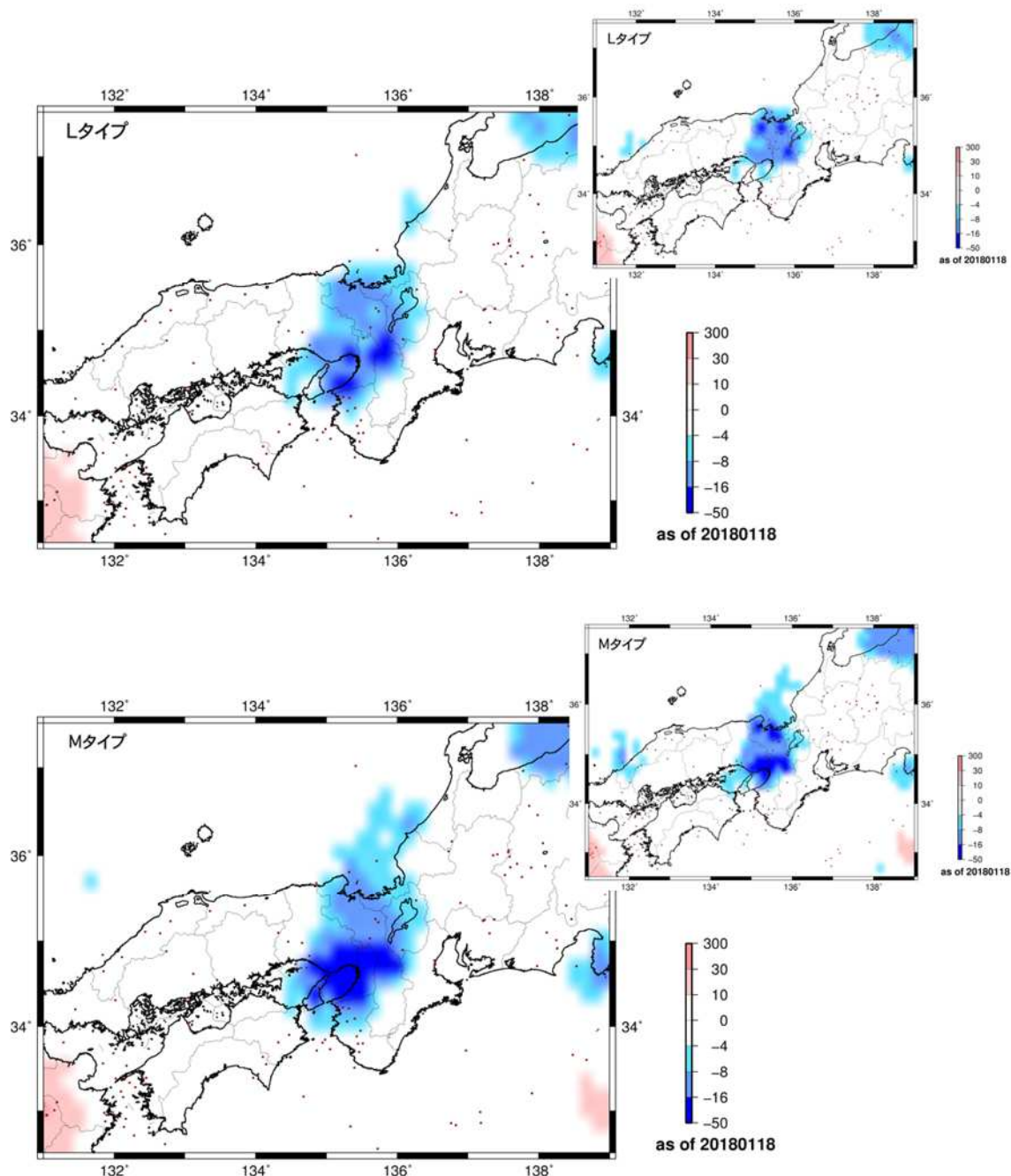




中部・近畿・中国・四国地方の地下天気図®

1月22日のニュースレターに引き、2種類の地下天気図解析（LタイプとMタイプ）をお示しします。2つのアルゴリズムで同時に異常が確認され、数ヶ月以上の期間続く場合は、「異常はみかけのものでなく、本物の地震活動静穏化異常である可能性が高い」と判断してよいと考えています。

下の地下天気図は2018年2月23日時点の最新のもので、上がLタイプ、下がMタイプです。いずれの地下天気図でも大阪周辺での静穏化の異常が目立ちます。また中国地方西部に広がっていた静穏化が消えているのもわかります。



この結果から、中国地方西部から瀬戸内海にかけての地域でも地震発生準備が整ってきた事がわかります。